

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	年度当初に立てた重点取組内容の多くは、成果指標に照らし合わせて、概ね達成できたと思われる。学校評価に関する生徒、保護者、職員へのアンケート結果も肯定的な評価が多い。学校評議員の方々も学校の取組に理解を示し、生徒の様子に関して好印象を持たれている。学校長のリーダーシップの下、全職員が同じ方向を向き日々の教育活動に取り組んでいる。本校の課題である特別支援教育と不登校支援に関しては、今後も全職員で情報を共有しチームで対応していく体制をつくっていく。また、家庭や外部機関とも連携を図り個々の生徒に寄り添った対応をていねいに重ねていく。学習面では、12月の県調査において、正答率の対照比が教科において下回ったものがある。生徒の学力の現状を分析しながら、さらなる職員の指導力向上を目指していかなければならない。
----------------------	---

2 学校教育目標	「きたえ やりぬき まなびあう」～自ら考え、行動する生徒の育成を目指して～
-----------------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	①「基本的な生活習慣」の定着・落ち着いた学校生活 ②「豊かな心」の育成 ・思いやりのある風土づくり ③「生徒(会)活動」の充実 ・活力に満ちた活動 ④「確かな学力」の定着 ・考える力を身に付け、自ら学び続ける生徒の育成 ⑤「組織力」の強化 ・「いしがき」をイメージした組織づくり
-------------------	---

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	●全職員が授業づくりのステップ1・2・3の内容を共通理解し、共通実践を目指す。	●学力向上対策評価シートに記載したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が90%以上をめざす。	●各職員が立てたマイプランを共有し、校内研修や授業研究会等で取組を促進する。	B	●職員対象のアンケートで、ステップ1・2・3を活用した授業作りを行った教師の割合が87%だった。 ●各職員の立てたマイプランをもとに、具体的な工夫点を校内研修や授業研究会で共有していく。	B	●職員対象のアンケートで、ステップ1・2・3を活用した授業作りを行った教師の割合が76%だった。 ●各職員が立てたマイプランをもとに、日々の授業実践や授業研究会に取り組んだ。	B	●情報を全職員で共有することで全体のスキルアップになり大変よい。 ●生徒の学力向上について先生方も学び研究されていることに感謝する。	●学力向上コーディネーター 研究主任
	○生徒一人一人が、主体的に学習に取り組む授業づくりを目指す。	○12月県調査の正答率の対照比が全教科で1.00を上回り、かつ前年対照比から0.02ポイントの上昇を目指す。	●授業の振り返りととまどめに重点を置いた授業の展開を実施する。 ●授業でのタブレット活用を促進し、生徒が主体的に取り組む授業を実施する。	A	●全職員で振り返りやまとめの意義・具体例等を確認して今年度の授業に臨んだ。 ●生徒の興味や関心を引き出し、思考力・判断力・表現力等を育成する授業づくりを進め、評価の工夫も行った。	B	●1年生においては、12月県調査の正答率の対照比が全教科で1.00を上回ることができた。 ●2年生においては、数学・英語で1.00に届かなかったが、昨年より0.04ポイント以上改善することができた。	A	●主体的な学習、思考力・判断力・表現力を育成する授業のおかげで学習意欲が高まっていると感じる。 ●生徒一人一人に合わせた対応が素晴らしい。	●学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性など、豊かな心を身に付ける教育活動を実施する。	○学校評価アンケートの「特別の教科 道徳」に関する質問において、その取組や成果に肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	●「考え議論する道徳」の授業の実践を行う。 ●人権週間での集会や標語作成を実施する。 ●PTAと連携したボランティア清掃活動を実施する。	A	●職員対象のアンケートでは、道徳の授業などによる心の教育の実施に対して、95%以上の職員が肯定的な回答をしている。 ●PTAと連携したボランティア清掃活動を実施し、職員10名、生徒30名、保護者20名程度の参加があった。	B	●2月の職員対象のアンケートでは、道徳の授業などによる心の教育の実施に対して、100%の職員と87%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	●議論する道徳に今後も注力をお願いしたい。 ●ボランティア活動は、コロナの様子次第では、もっと地域と連携していくことができるのではないかと感じる。	●道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応体制を充実させる。	○学校評価アンケートのいじめを許さない雰囲気作りや教師の指導に関する質問において、肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	●週末アンケートの確実な実施、内容の把握、早期対応、早期指導を行う。 ●いじめ防止研修会を実施する。	B	●職員・生徒対象のアンケートでは、100%の職員と97%の生徒がいじめを許さない雰囲気作りに対して肯定的な回答を行った。 ●いじめや問題行動等を把握する本確認アンケートを継続して行い、迅速な組織的対応を行っていく。 ●生徒対象のアンケートでは、89%の生徒が肯定的な回答を行った。	A	●2月の教員対象のアンケートでは、前回同様、100%の職員がいじめを許さない雰囲気作りに対して肯定的な回答を行った。 ●2月の生徒対象のアンケートでは、いじめ指導について、96%以上の生徒が肯定的な回答をしている。 ●2月の生徒対象のアンケートでは、夢に向かってさらに努力をしていくかという質問に対し、95%の生徒が肯定的な回答であった。	A	●いじめを許さない雰囲気づくりができていると思う。今後も予防と迅速な対応をお願いしたい。 ●学校の雰囲気もみていると荒れた様子もなく先生方の努力が実っていると感じる。 ●毎週のアンケートは大変だが、早期対応につながる。行事と関連させて指導をしていただいていると感じる。肯定的な回答89%は素晴らしい。 ●何事においても一生懸命に取り組むことは大切である。引き続き指導をお願いしたい。	●生徒指導主事
	◎本校教育目標「きたえ やりぬき まなびあう」を念頭に置いた志を高める教育の実践を行う。	◎学校評価アンケートの「自分の夢や目標」に向かって努力を続けているかという質問に対して、肯定的な回答を行った生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	●学習や学校行事、部活動において活動の振り返りを行う場を設定する。	B	●学習や学校行事、部活動等で生徒が主体的に活躍できる場を多く設定した活動を行う。 ●学習や学校行事、部活動において活動の振り返りを行う場を設定する。	B	●2月の生徒対象のアンケートでは、夢に向かってさらに努力をしていくかという質問に対し、95%の生徒が肯定的な回答であった。	A	●何事においても一生懸命に取り組むことは大切である。引き続き指導をお願いしたい。	●主幹教諭
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣を形成させる。	○学校評価アンケートで「早寝早起朝ごはん」に関する質問で、これを実践している生徒、実践を生徒にさせている保護者の肯定的な回答の割合が90%以上を目指す。	●学習成果と生活リズムの関係について学級指導を行う。 ●各集会において、礼法指導を行い、節度ある行動の意識付けを行う。	B	●保護者・生徒対象のアンケートでは、86%の保護者と84%の生徒が肯定的な回答を行った。「早寝・早起き・朝ご飯」が十分定着している。	B	●2月の保護者・生徒対象のアンケートでは、90%の保護者と84%の生徒が肯定的な回答を行った。前回の結果より、保護者は4ポイント向上したが、生徒への定着は不十分である。引き続き生徒や家庭への啓発が必要である。	B	●よい取り組みである。 ●基本的な生活習慣が身に付き充実した学校生活を過ごせていると感じる。今後90%に期待する。	●保健主事 生徒指導主事
	○望ましい食習慣の確立を目指す。	○学校評価アンケートの質問「健康に食事は大切である」に対して、生徒の肯定的な回答を行った生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	●学校給食を教材に、バランスのとれた、健康づくりに特化したメニューを考案させる。	A	●生徒対象のアンケートでは、97%の生徒が食事の重要性を認識している。 ●給食メニューの考案を給食センターとタイアップして取り組ませた。	A	●2月の生徒対象のアンケートでは、前回同様約97%の生徒が食事の重要性を認識している。今後も引き続き、家庭科の授業や町の給食センターとタイアップしながら、食の重要性を説いていきたい。	A	●いつもおいしい給食を準備していただいていたが、バランスのよいおいしい給食を提供していただいている。 ●望ましい食習慣が身に付くと思う。	●保健主事 給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間を削減する。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●県と町の部活動ガイドラインを遵守する。 ●行事等の精選を行い、ゆとりのもてる時間の確保をする。 ●学校閉庁日を設定する。	B	●職員対象のアンケートでは、70%の職員がワークライフバランスを保とうと意識している。 ●毎日の業務記録簿の入力は定着しているが、月45時間以内超過勤務は達成できていない。	B	●職員対象のアンケートでは、66%の職員がワークライフバランスを保とうと意識している。 ●毎日の業務記録簿の入力は定着しているが、月45時間以内超過勤務は達成できていない。	B	●大変難しい問題である。よい方法はなかなか見つからないと思うが、少しでもよい方向へいけばよい。 ●超過勤務が多いのは心配である。先生方のメンタル・体調に関係する。	●教頭 主幹教諭
	○働き方改革を推進する。	○教職員全体に対して、勤務時間を意識した働き方を浸透させるために、毎月の職員会議で呼びかける。	●定時退勤日の確実な実施を行う。 ●教職員のメンタルヘルスチェックを実施する。	B	●定時退勤推進日は設定しているが、完全な実施には至っていない。さらなる対策が必要である。	B	●定時退勤日の完全実施は、完全な実施に至っていない。校時の見直しなどさらなる対策が必要である。 ●メンタルヘルスチェックについては実施することができた。	B	●大変難しい問題である。よい方法はなかなか見つからないと思うが、少しでもよい方向へいけばよい。 ●教師のなり手不足解消や指導の質の向上につながる。改革の努力を続けてほしい。	●校長 教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)								
○特別支援	○生徒の特性を理解するための職員の研修を深める。	○講師を招いた特別支援教育に関する研修会を開催する。 ○特別支援教育推進委員会を毎月実施する。	●夏季休業中に、研修会を開催する。 ●特別支援教育推進委員会と協議した内容を全員が共有できるように連絡体制を確立する。	A	●特別支援教育推進委員会を毎月実施した。講師を招いた研修会も8月に行うことができた。	A	●特別支援教育推進委員会を毎月実施することができた。また、全職員にも生徒指導協議会において共通理解を深めることができた。 ●一人一人の特性に応じた支援を続けていくためには、外部との連携も必要であり、更なる研修が必要である。	A	●基山中は、特別支援への取り組みが大変手厚い。 ●特性の多様化により、理解や支援は難しくなっていると思うが、今後も支援を続けていきたい。 ●個々に合うようよくされている。	●特別支援教育コーディネーター
○不登校支援	○家庭との信頼関係を築くために、綿密に連絡を取り合う。 ○専門機関との相談体制を計画に行う。	○新たな不登校の発生0を目指す。	●SC、SSWを交えた教育相談部会を定例化する。 ●教育相談部会の内容を全職員で共通理解するための体制をシステム化する。	A	●SSWや学校生活支援員と連携し、家庭訪問などを行った。また、SSW、SS、学校生活支援員を交えた教育相談部会を毎月実施している。	A	●教育相談部会を毎月実施し、SSW、SS、学校生活支援員とともに情報交換を行っている。SSWや学校生活支援員と連携して家庭訪問などを行い、保護者や本人とのつながりが継続するように努めた。	A	●様々な事情があると考える。引き続き指導をお願いしたい。 ●不登校児も家族も苦しんでいると思う。サポートをよろしくお願いしたい。 ●いろいろな努力が感じられる。今後もよろしくお願いしたい。	●教育相談担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	年度当初に立てた重点取組内容は、成果指標に照らし合わせて、対策が必要なものが見られる。全職員で共通理解を図りよりよい学校づくりに努めていく。 ●本校の課題である特別支援教育と不登校支援に関しては、チームで対応し、外部との連携も進み、効果が徐々に上がっている。今後も連携を深めたい。 ●学力の向上に関しては、考える力を身に付けさせるために、思考操作を取り入れた授業を展開していく。
-----------------------	---